

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 3月 29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470501952		
法人名	光電産業株式会社		
事業所名	グループホーム（夢）		
所在地	呉市焼山本庄四丁目2番18号 (電話) 0823-30-3080		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470501952-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470501952-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年3月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

運営推進会議を通じて情報交換をしながら、地域行事（花見、夏・秋祭り、とんど、防災訓練）に積極的に参加し、地域住民によるボランティアの方々の日本舞踊、フラダンス、音楽会、フルート演奏、オカリナ演奏等、沢山の方々と交流も大切にしている。又、家庭的な個別ケアの充実に力を入れており、日々の生活の関りの中で、表情・仕草・行動などから、言葉では伝えられない想いをくみ取り、心に寄り添うケアを大切にしている。又、実践していく事で、その方らしい生活を過ごして頂けるよう努めている。看護師資格を有するスタッフが、日勤帯に配置されており、地域医療とも密に連携を図っている。訪問マッサージも入居者様には大好評となっている。職員は外部研修参加、内部講師による研修参加等で、各人のスキルアップに向け意欲的に取り組んでおり、資格取得に向けてのフォローアップも行い、事業所全体の質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人基本理念「笑顔・思いやり・感謝・感動」の下に、利用者に寄り添い、利用者のペースで生活できるように職員は見守っている。また、利用者も職員も「笑顔」で過ごせるように取り組んでいる。利用者を人生の先輩として尊敬し職員の都合を優先せず、利用者本位の支援を目指している。職員手作りの食事を提供しているが、利用者と職員が会話を楽しみながら食事をしている。また、居間で風船バレーボールを楽しんだりお喋りをして、利用者と職員が一つの家族のように生活している。地域とのつながりを重視し、自治会の行事に利用者が参加し地域住民と交流している。また法人としても「認知症予防カフェ」や呉市委託の「きてくれサロン」を定期的開催し、NPO法人を立ち上げ地域支援活動を行っている。職員が子育てしながら働きやすい環境を整備している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念は、スタッフの日々のケアの源であり、常に意識し、実践に繋がるようスタッフ間で声掛けをしている。毎月の定例ミーティングにおいても、共有出来るよう再確認している。	法人基本理念「笑顔・思いやり・感謝・感動」は、事業所内に掲示し、職員会議で唱和し、共有している。理念の実践状況は、「個人の取り組み」を個人面談で聴き取り評価している。今後は、「事業所の年間取り組み」を設定し、それを基に、個人目標、その後の評価をして、人事考課に反映する予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会主催の花見、夏・秋の祭り等、自治会より声をかけて頂き、地域の行事に参加させて頂き、地域の方との交流を図っている。又、隣接しているデイサービスにて行事に参加し、交流を深めている。	自治会の会議に出席し、「地域社会の交流」の話し合いに参加したり、近所の人の相談に応じている。自治会主催の行事に利用者が参加し、また、同一法人デイサービスと合同で行う行事には、地域ボランティアが参加し、近所の人も参加し、一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	長年続けている地域開催のサロンへ、スタッフが参加、貢献している。又、事業内における地域住民によるサロンの開催など、地域住民の方々との触れ合いの中で、認知症への理解を深めていただけるようサポートしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎年、議題・担当月を決め、情報提供・事例報告などを行い、話し合いの中で、助言を頂きながら、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、自治会長や様々な職種の住民が参加し、開催されている。「認知症施策について」などのテーマを毎回決めて、発表者が説明し、意見交換している。出席者の意見により、次回のテーマを決めたり、「地域の取り組み」について、出席者の意見を参考に、事業所で出来ることを実践したこともある。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議には市・地域包括支援センターの職員に、年に1度参加して頂き、情報交換を行っている。疑問・不明点などはすぐに連絡・相談をし、回答を頂きながら、関係を密にして取組んでいる。	運営推進会議には、毎回、地域包括支援センター職員が参加し、地域の方の相談を伝えたり、地域包括支援センターからの相談に応じていることもある。また年に1回、市職員が出席し、意見交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内において内部研修を行い、身体拘束排除の事業所方針に沿い、無意識のうちに行っていないか・見過ごされていないか等、スタッフ同士で気を配りながら確認をし、ケアを行っている。	「身体拘束・虐待」に関する施設内研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組み、身体拘束は行っていない。管理者は、「言葉による強制」などを含めて、無意識のうちに身体拘束を行っていないか、職員に確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	事業所内において内部研修を行い、援助関係を形成する上で重要な、バイスティックの7つの原則を皆で毎回音読し、一人ひとりが自覚を持ち、日頃から意識しながら、声掛け・対応を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は社外研修に参加し、制度の理解を深め、成年後見制度を利用されている入居者もあり、スタッフも内部研修において理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要説明事項等読上げ、夢のケア・考え方・取り組み等丁寧に説明し、質問を受けながら同意を得ている。又、不安・不明点などは面会時、改定等は文書等で理解してもらい、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には、家族の会話の中から意向・意見・要望等をくみ取り、記録し、情報をスタッフと共有し、運営・支援に反映している。厳しく、率直なご意見も頂けるよう、意見箱を設置し、定期的に確認作業も行っている。	事業所の行事や面会に来られた際には、家族と会話し、玄関には「ご意見箱」を設置して、家族の意見・要望を把握するように努めているが、今のところ苦情はない。	家族の要望は個別に聞いているが、家族会は開催されてなく、事業所の運営状況が家族に報告されていない。また、運営推進会議では、事業所の行事・事故、利用者状況などが報告されているが、家族の出席は1名である。今後は運営推進会議議事録を送付して、事業所の状況を家族に報告することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティングや各スタッフとの面接を定期的に行い、定例ミーティング等で意見・考え等を聞き、反映している。	月1回、職員会議を開催し、職員の意見を聞いている。職員の意見により業務の改善を行っている。改善例として、利用者のバイタルチェックを夜勤者から日勤職員に変更したり、職員全員参加しての食事を、職員のシフト毎に休憩と食事時間を設定し、食事を取るようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフの適材適所（オールマイティ）の配置が出来るよう、定期的に個人面接を行い、希望・労働条件の確認などを話し合う場を設けている。現場には、1日1回は必ず顔を出し、報・連・相の強化、向上を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部講師による研修会、外部研修案内で職員が希望する研修に参加し易いよう配慮している。各自参加者が研修報告することで、再確認などイメージトレーニングをし、スキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	開設当初から加入しているグループホーム協会の研修会、行事等に積極的に参加し、情報を共有している。近隣に同業者があり、切磋琢磨し、意見交換・相談などしている。自社にサロンがあり、ボランティアなど地域の方々に利用して頂き、情報発信・コミュニケーションの向上に繋がっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談→入居に至るまでの間、何度も面接の機会を設け（夢）を見学して頂き、できるだけ本人が入居に対して、納得・安心して頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	計画書作成時に家族の不安・心配事等の話を聴き、悩み等解消できるサービスが提供できよう支援し、安心していただくことで、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画書作成時にしっかり話を聴き、今、何が必要なかを見極め、本人・家族の理解を得た上で、当デイサービス・他のサービスの利用を含めた対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の準備や味付けなど、一人ひとりの力に応じた作業を一緒にして頂くことで、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族も気軽に訪問できる雰囲気作りをし、面会等で生活情報を発信し共有することで、支え合う関係の維持に努めている。又、誕生会、その他の行事など、声を掛け、時間があれば参加して頂き、楽しいひと時を共に過ごして頂けるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	使い慣れた生活用品等の持ち込みや、家族等が面会し易く、気軽に訪ねて頂けるよう開放している。又当デイサービスの行事参加・地域の祭り参加・先祖墓参り・帰宅等支援に努めている。	利用者の家族や知人が面会に来られた際には歓待し、気軽に訪ねられるように気遣っている。墓参りや自宅訪問などの要望があれば、職員が同行し対応することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、居間やソファで楽しんで頂ける時間を作り、楽しく支えあう関係が保てるようサポートしている。座席等もその時々に応じて、スタッフと話し合いながら、対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入居者死亡によるサービス終了と共に、全ての関係性が終了するのではなく、契約終了後も家族の相談に応じ、関係の継続を大切にしている。サロンなども開放しているので、ご家族や関係者が気軽に訪問できるようにしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、行動・態度で把握できない場合は、しっかりと居室にて話を聴き取り、想いを読み取るよう努めている。又、困難な場合も、“寄り添うこと”を大切に、本人のペースに合わせ、本人本位の過ごし方を中心に検討している。	日常会話で得られた利用者の思いや意向は、ケアシートの「よいこと記録」や「何でも気づきノート」に記録し、職員間で共有している。事業所利用後、なかなか笑顔が見えない利用者にも、今まで利用していたデイサービスを訪問するプランを作成し、馴染めるようにした例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人・家族・身近な方から、できるだけ詳細に情報を収集している。これから支援していく上で、生活（暮らし）の中で、生かしていくよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活歴から本人らしい過ごし方、個別の生活の流れを把握しながら、気分・認知面・身体等の変化を見逃さない様な体制作りに努めている。日々の個別ケアシート記入により、安心して生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングにおいて、利用者のモニタリング・評価等をグループで話し合い作成している。家族とは面談を実施し、看護職員や主治医の意見を基に、総合的に計画を作成している。	利用者毎に担当者は決めていないが、ケア会議で利用者の状況を職員と話し合い、モニタリングを行っている。その後、モニタリングを基に家族の意見を聞いて、ケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケアシート等を毎月のミーティング・毎日の申し送り・会議などで見直しをしながら、記録の短縮化・合理化を図りつつ、より良いサービスに繋げて、計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・家族の意向を踏まえ、併設しているデイサービスへの参加・突発的な受診の対応・外出の希望など、家族と連携をとりながら調整し、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事への参加・地域ボランティアによる演奏会や行事などに交流をさせてもらい、楽しいひと時を送って頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	身体状況や服薬後の経過等、看護職員が適宜、協力医に伝えている。介護職員・看護職員・協力医との連携により、日常の健康管理など、家族との連絡も密にとっている。	本人や家族の要望を聞き、かかりつけ医を決めている。現在は、利用者全員が本事業所の協力医をかかりつけ医としている。また、看護師2名が勤務して、利用者の健康状況を把握し、かかりつけ医と連絡を取り、対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員・介護職員は日々のケアシートに記録し、情報を共有している。看護職員を配置していることで、入居者の細かい変化にも対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	運営推進会議には協力病院のソーシャルワーカーの参加があり、情報交換・相談など行い、入院の際は、こまめに様子を伺いに行き、看護師・医師から報告など受け、家族と連携をとりながら、早期退院に向け調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時には、事業所の重度化への対応方針や、看取りの指針を説明し、同意を得ている。必要になった時には、家族に再度、確認し、主治医・看護師との密なる連携を組み、医師・家族を含むカンファレンスを適宜、行い、チームでの支援に取り組んでいる。	事業所としては、家族の要望があれば看取りを行う方針である。利用時に、「終末期生活・看取り」に関する説明を行い、事前確認している。重度化した際には、医師・家族・職員によるカンファレンスで、医師による状況説明を行っている。その後、家族が要望すれば「看取り同意書」提出後、ケアプランを作成し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを再度確認しながら、内部研修において、緊急時には全職員が迅速かつ適切に行動できるよう努めている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署立会いの下、年2回（夜想定1回）入居者、職員等訓練を行っている。自治会にも協力して頂き、地域民生委員の方々とも協力体制をとっている。	年2回（夜間対応を1回）、消防署立ち合いの下に、利用者も参加して避難訓練を行っている。その際には、地域住民にも連絡し、一緒に訓練を行っている。また、災害時には自治会長に連絡し、地域住民が協力する体制が整っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月のミーティングにおいて、倫理及び接遇を読み合わせることで、各自が再確認をし、先輩として敬意を持った接し方、時には親しみを込めた接し方など、臨機応変な対応に心がけている。意思疎通が困難な場合でも、見守りや寄り添いに重きを置き、表情や声色等、良質な非言語コミュニケーションを大切にしている。	「倫理・接遇」に関する施設内研修を行い、毎月の会議で「バイスティック7原則」「コミュニケーション」について読み合わせを行っている。「人生の先輩として尊敬する」「職員の都合を優先せず利用者本位の支援」を行うよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望をはっきり表現される事は少ない為、職員は会話のなかで、落ち着いて感情・希望等をくみ取り、本人に沿った援助等が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝・夜の申し送り、一人ひとりその日の状況、過し方を確認し、検討している。その後も、日中の会話を通じて希望・要望をくみ取るよう、ケアに生かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1度、ボランティアの方による化粧・美容マッサージを取り入れ、女性ならではの喜びを体感して頂いている。外出時には、おしゃれが出来るよう支援している。散髪も、地域の方に協力して頂き、月1度、事業所にて実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節毎に旬の食材を使い、手作りの料理で、職員も共に同じものを食べながら、楽しみながら食事をして頂いている。入居者に沿って、調理の下準備（ミキサー食・ソフト食等）、下膳・洗い物など、できることを一緒にしている。	職員手作りによる食事を提供している。献立は管理栄養士が作成するが、利用者の摂取状況や要望を反映し、美味しい食事を提供するように配慮している。七夕・ひな祭りなどの行事食では、見た目も美しく、盛り付けや食器を工夫している。利用者と一緒に後片付けを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士による献立があり，食事の形態・メニューなどは，その方の状態に合わせ，その都度変更している。又，一人ひとりの水分・食事量など，ケアシートにこまめに記入し，職員が把握できるように行っている。主治医からの処方栄養補助食品の補充などで，体調不良になる事がないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりに沿った口腔ケアを，毎食後支援している。又，毎月の歯科医による往診で，口腔チェック・指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	毎日のケアシート記入で，一人ひとりの排泄のパターンを把握し，声掛けをし，出きるだけトイレ誘導ができるよう支援している。居室にもポータブルトイレを設置し，起床時等の排便の習慣化にも支援を行っている。	利用者毎の排泄パターンを把握し，トイレ誘導するが，常に「排泄ケアシート」の記録をチェックして，排泄間隔が長い場合はトイレ誘導している。夜間にトイレに行きやすいように，居室にポータブルトイレを設置することもある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日のケアシート記入による排便状況は，職員等が把握できている。下剤に頼らず，管理栄養士による食材（ヨーグルト・牛乳等食物繊維多）の摂取・看護師スタッフによる腹部マッサージなど，排便予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	時間・曜日は一応決めてはいるが，24時間循環風呂を設置しているので，一人ひとりいつでも入浴できる体制になっている。入浴できない日は，足温浴にて身体を温めている。	週3回入浴するようにし，それ以上の入浴希望があれば，出来るだけ対応している。利用者の体調に配慮して，午前，おやつ後に入浴を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は居室・共有スペースで、各人、自由に休息をとって頂いている。夜間は各部屋の室温・寝具（ラバーシーツ→高反発マット→シーツ、アンカ・湯たんぼ使用）の状態・入眠状況を確認しながら、安眠できるよう支援している。寒いと言われる方には、敷きパットにて対応している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別の服薬袋を、看護師の確認の下、スタッフと共有し、申し送り情報・変更を伝えている。薬明細（薬効・用量・用法）などを、全職員がその都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴を把握し、出来る事・楽しむ事等を実施している。若返りプリントで気分転換をしながら、その人らしさを発揮できる場を提供できるよう心がけている。ビールがお好きだった方には、時々、ビールの日を設ける等、スタッフ見守りのもと、安全の範囲内で、一人ひとりの楽しみを取り入れられるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の生活・会話の中で、入居者の気持ちに寄り添いながら、その方の気持ちをくみ取る努力をし、散歩・買い物・ドライブ等の支援に繋げている。隣接しているデイサービスでのボランティア行事などには積極的に参加し、地域の方々へ車椅子の介助・誘導などを協力して頂いている。	天候が良い日には出来るだけ散歩するようにし、個別に外出することで、車いす利用者も散歩に出かけている。利用者の要望で買い物に出かけたり、近隣の公園に花見に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の金銭管理の取扱はしていない。買い物等職員がサポートし、楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	通信支援等は希望があれば、いつでも家族・知人に連絡が出来るよう、連絡先一覧表を作成している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花等、飾り物で季節感を感じて頂き、職員もその都度、声掛けをしている。各居室入り口には名前をつけ、トイレ等にも解りやすく張り紙を張る等し、安心して生活して頂くよう工夫している。冬季は、浴室やトイレ等は特に温度差に気をつけ、部分的に小型の暖房を置く等して、快適に使用できるよう配慮している。	事業所内には、季節の花を飾り、ひな祭り・クリスマスの飾りつけを行い、利用者に季節を感じてもらっている。事業所2Fで行われるサロンに参加した利用者の作品を、玄関に飾ることもある。冬季にトイレ・浴室が寒くならないように、暖房機を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	身体機能の低下から、ゆっくり自室で過される方が多い。日中は少しでも居間で過して頂けるよう、声掛けをしている。テーブル配置など、入居者様同士コミュニケーションがとり易いような組み合わせを考え、座って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、馴染みのあるものを持込んで頂くよう家族にお願いしている。生活習慣、趣味、趣向を継続し、その人らしい空間作りの協力をさせて頂いている。	馴染みの家具やソファなどを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。事務関係の仕事をしていた利用者の為に、机を用意し、作業する環境を整えたこともある。本が好きな利用者の為に、家族が本や週刊誌を持参することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	アセスメントした上で、安全面を考慮しながら、その都度、持っている能力に応じた行動を見守りながら、手すり・居室内のテーブル・イス・ベッドの配置を変更し、安全に過ごせるよう工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム (夢)

作成日 平成29年4月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族会開催の実施ができておらず、運営推進会議への家族参加数も少ない為、事業所の運営状況が全家族に報告できていない。	運営状況を全ての家族に報告できるようにする。	運営推進会議の議事録が、運営状況が解るものになっているので、議事録を全家族へ送付する。	29. 4. 20運営推進会議より、議事録の発送の実施。
2		重要事項説明時の「念書」	ご家族がもっと解り易い物へ変える	「リスク説明書」に同意を頂ける様、書類を作成。	29. 4. 1より使用できるよう作成済み
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。